



## 画題「イルミネーション」

うすい かずみ  
碓井 一海さん

恒例の冬のイルミネーション、この作品はハーブ園の下から見上げたアンゲルが新鮮なイメージを感じる秀作。



## 画題「新春の一日」

ひぐち さとし  
樋口 聡さん

新春に行われるどんど焼き。富士山を背景に中景に電車。時間の流れを感じる優れた作品。



今回の応募は123点でした。今年の特徴は春の桜の作品が多く、多岐にわたったものでテーマを早咲きの桜ばかりでなく、しだれ桜や、ソメイヨシノ、山桜が混在する自然の美しさを表現する作品が多く見られたのが印象的でした。また、春夏秋冬部門の夏・秋・冬では、点数が少なかった中にも、力作が見られました。今回は特に、松田町とのツナガリを象徴する写真をテーマに募集したところ、多くの作品が出品されました。見えるツナガリ部門のイメージは、夜景の電車などが多くあり、選考にあたっては、もう少し広い意味での作品に秀作が多くあり、これらを入賞作品としました。写真コンテスト分野にも生成AIの影響がでるかもしれませんが、生成AIにはない視点や、何をどう撮るのかという工夫、そして感動の瞬間を捉えるシャッターの瞬間を大切に、次回も優れた作品を期待しています。 選評／公益財団法人 日本写真家協会 にしおか おさむ 西岡 修